

教育委員会と連携した授業展開の工夫：スポーツ指導者論

保健体育・日野克博

1. 授業の概要

「スポーツ指導者論」は、スポーツ健康科学課程の3年生を対象に開講している。近年、体罰や暴力等に頼らないスポーツ指導のあり方や、教員の負担軽減、休養日の設定など運動部活動のあり方が問われている。本授業では、学校教育において大きな役割を果たしている運動部活動の意義や役割を理解するとともに、運動部活動を取り巻く諸課題の改善方策について自己の考えを持ち、よりよい運動部活動の運営や指導に活用できる実践的指導力を身に付けることをねらいにしている。

2. 授業の展開

本授業は、共通のテキスト（運動部活動の理論と実践、大修館書店）のもと、各教員で専門性を生かしながら内容を分担して実施している。主に前半は、運動部活動の意義等（糸岡）、運動部活動の歴史等（石井）、トップアスリートの言葉等（福田）、スポーツの社会心理等（田中）を通して運動部活動に対する基本的な知識や考え方について学習し、後半は、部活動マネジメントや部活動指導者研修会等（日野）を通して実践的なマネジメントや指導方法について学習する。本報告では後半（日野担当）の内容について述べる。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

1) 教員委員会作成資料の活用

愛媛県教育委員会では、運動部活動の適切な指導や運営のために、指導者に対する参考資料として「部活動運営ガイド」を作成している。これは、経験の浅い指導者の手引きとして、また、経験豊富な指導者にはより教育効果を高めるための資料として、愛媛県教育委員会が作成し（日野も作成メンバーの一人）、教育現場での積極的な活用が期待されている。本授業において「部活動運営

ガイド」を活用することにより、①学校現場で推奨されている資料を学生が知る機会を提供する、②教育委員会作成資料を通じて、学校現場で生じている実践的、現実的な課題とその改善方を理解する、③本授業での活用を通して、本ガイドの内容や使用方法について再確認する、ことをねらいにしている。

本授業では、「部活動運営ガイド」に記載されている運動部活動で実際に生じた事故事例やハラスメント事例を取り上げ、その対処や適切な対応の仕方について、グループ討議を通して理解させるようにした。なお、「部活動運営ガイド」は愛媛県教育委員会 HP からダウンロード可能である。

2) 運動部活動指導者研修会への参加

愛媛県教育委員会では、運動部活動の顧問教員や外部指導者に対して、中央競技団体やオリンピックを輩出した優れた指導者等を招聘して、毎年、運動部活動指導者研修会を開催している。教育委員会と連携し、将来のスポーツ指導者の養成の一貫として、本授業を受講している学生にも研修会に参加させることにした。

研修会は、以下の日程、内容で開催された。

<第1回運動部活動指導者研修会>

日時…平成28年12月18日（日）

会場…愛媛大学グリーンホール

講師

・「4スタンス理論の基礎と指導について」

（一般財団法人レッシュプロジェクト 小杉英紀）

・「スポーツ外傷・傷害の予防について」

（愛媛県体育協会スポーツ医科学委員会 島崎勝行）

<第2回運動部活動指導者研修会>

日時…平成29年1月12日（木）

会場…ホテルメルパルク松山

講師

- ・「希望を星につなげ！」

(JOC 競技オリンピック強化コーチ 加藤健志)

- ・「ビジョントレーニング」

(イブラスジム松山 西野三和)

研修会と本授業をリンクさせる利点として、以下のような点があげられる。

- ・教育委員会と連携することにより、大学の授業では招聘できない優れた指導者の生の声や各分野の最先端の指導理論やトレーニング法を知ることができる。

(ちなみに、加藤氏はリオオリンピックの金藤選手(水泳、金メダリスト)の指導者であり、学生は金メダルに直接触れるとともに、指導の裏側や秘話に熱心に耳を傾けていた)

- ・学校現場の先生方と同席することにより、現場教員の学ぶ姿勢や学び方、現実的な指導に対する課題等に触れることができる。
- ・大学の施設を使用してもらうことにより、大学生が研修会に参加しやすい条件を整えられる。(今年度は、第1回研修会を本学グリーンホールで実施)

3) 学生の省察、振り返りの充実

研修会等に参加して学習した内容を今後の指導に生かすことができるようにするために、本授業では、以下のような授業内容や学習方法を適用した。

① 研修会内容のショートプレゼン

研修会に参加した後の大学での授業では、研修会で学習したことについて、各自でまとめ、一人一人のショートプレゼンテーションを実施した。その内容について質疑応答を通じて、他者の感じ方や受けとめ方を知りながら、自己の学びの定着を図るようにした。

② 部活動通信の作成

本授業の最後には、運動部活動やスポーツ指導に対する自己の指導理念や指導方針を明確化させることにした。対話ワークを通じて、自己の指導理念を具体化させ、その内容を生徒や保護者に伝えるための運動部活動通信を各自に作成させた。

こうした学習を通じて、地域社会(学校現場)で生じている課題とのつながりを持たせた学びの充実を図った。

4. 学生の授業評価

全授業終了時に実施した DP 対応の学生認識調査の結果は、表 1 のとおりである。DP に対応した(DP 2, DP 3)学生の評価では、具体的な知識の理解は高い評価になったが、技能等を身に付ける点については課題が残った。

表 1. DP 対応の学生調査の結果

設問	N=18	とても	ある程度
2A. 教育めぐる様々な現代的課題		15	3
2B. 教育の現代的課題への対応方法		15	3
3A. 教育活動に取り組むための技能		11	7
3B. 教育活動に取り組むための表現		13	5

また、表 2 は学生のコメントの一部である。本授業を通じて、様々な内容について学ぶなかで、指導に対する考えを整理し、自己の指導理念を明確化させることにつながったと言える。

表 2. 学生のコメント

- ・スポーツ指導者論を通じて「様々な視点からの指導者の在り方」というものが学べた
- ・現在の部活動における最先端の情報や、様々な指導者の指導哲学など、普段の授業では学ぶことができないことを研修会で得ることができ良い機会を頂くことができた
- ・指導者にも色々な考え方があるということを知ることができてよかった。このような人の話を聞ける機会は少ないのでよかった。
- ・グループワークはビデオ学習が多く自分で考え、他者の意見が聞くなどの場が多くてよかった。また、外部の講習会や演説を聞きに行ったのは非常に良い経験になったに、エネルギーを貰った。
- ・運動部活動で実際に起こった事故や事件を取り上げて、それについて対処法を考えたりしたことで運動部活動の事故や事件が身近に感じられより深く学ぶことができた。
- ・講演会に参加することで新たな知識が身に付くと同時にためになる話を聞くことができて良かった。

5. 本授業の成果と今後の課題

本授業の後半は、教育委員会との連携した授業を展開することにより、学生の主体的な学びを引き出すことができた。現在、運動部活動に対する実態調査を教育委員会と実施しており、それらの内容を授業でも活用しながら、教育と研究のつながりを持たせていきたい。そして、学生にとってよりリアリティのある学びの場を提供していきたい。